NOW IS.

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

2018.7.11
Vol. 27
July, 2018
ナウイズ
毎月11日発行

高橋ジョージ・in石巻

撮影地:雲雀野(ひばりの)海岸

石巻って ロックンロール！

BLUE RESISTANCEでオーナーの黒澤英明さんと。

若いミュージシャンがスポットライトを浴びる場に。

遠くに石巻工業港の工場が霞む、オフシーズンの海岸。波音をバックに「ロード」の歌声が響きます。この日、石巻を一緒に歩いたのは、歌手・タレントの高橋ジョージさん。「石巻の海を見たいと、アコースティックギターを手に砂浜を歩きました。「一歩一歩は時間がかかっても、確実に進化してるな…」。

ジョージさんは震災の7日後、被災地を訪れました。出身は宮城県栗原市。仙台も石巻も想い出がたくさんあります。「震災当時は自分があれもしないと、これもできる、という想いで動いてた。仕事のない日にクルマで被災地に行って、駐車場で突貫ライブしたりしていました」。

BLUE RESISTANCE　壁や天井には、設立を支援したミュージシャンや企業、音楽ファンの人たちの名前が貼られている。

復興の街を未来のユートピアに！ 高橋ジョージさんと石巻をめぐる。

この日はじめに訪れたのは、石巻市中心部にあるライブハウスBLUE RESISTANCE。沿岸部にライブハウスを建て、音楽の力で互いを励まし、震災と復興を体感してもらおうというプロジェクト「東北ライブハウス大作戦」の力で生まれました。壁には、ライブハウスの設立を支援したミュージシャンのサインがびっしりと貼られています。スタンドで250席ほどの小さなライブハウス。ジョージさんは2012年のオープンから度々訪れています。「なんだか居心地がいいハコなんだよ。それにしてもいろんな人が来てるよね。ブッキングが大変でしょう」。震災前まで養殖業を営んでいたという代表の黒澤英明さんは、控えめに笑いながらうなずきます。「石巻はライブハウスがあまりない街なので、ここが音楽をする人の灯台のような場所になったらいいなと思います」。ジョージさんも、「そうだよね」とうなずきます。「若い人が熱をあげられる場があると、自分の街にプライドを持てるようになる。音楽を始めたばかりの人って、スポットライトと舞台が励みになるから。石巻って、英語でいったらロックンロールじゃない。ロックな若者が、ここから出るようになったらいいよね」。

街ができあがっていく過程を子どもたちに見せたい。

次に訪れたのは、2017年6月にオープンした「いしのまき元気いちば」。「おお！いいね、ここ」。ジョージさんは声を上げます。「石巻って、今までおみやげ買える場所があまりなかったから、これはうれしい」。1階は海産物や農産物、おみやげなどが並ぶコーナー。2階にはフードコート「元気食堂」があります。ジョージさんは海産物コーナーをまわって、試食したり、買い物したり。旬のウニを食べて「すごくうまい！」と満面の笑みです。お店の方も「ウニは足が早いから、現地で食べるのが一番。ミョウバンが入っていないから、最高だよ」。2階の元気食堂では、東京の有名ラーメン店が監修した「あら〜麺」に舌鼓。1階の直売所でその日に出た魚のアラを使うこのラーメンを「デリケートなスープが最高。もっと宣伝して、もっと来てもらったらいいよ！」と絶賛しました。

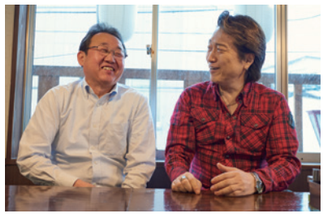
いしのまき元気いちば
地元の学生とコラボして開発した商品も販売。新鮮な野菜や魚介を求めて訪れる地元客も多い。

旅の最後は、ジョージさんの同級生が経営するという焼肉店に。「復興で来ていた工事関係者が減って、一時の勢いは収まってきていますが、石巻の人はみんな親切。この店のホルモンうまかったな、と思い出してもらえる店にしたい」とオーナーの松山さんは話します。

「音楽、買い物、行きつけ。今日まわったような場所が、これからの街づくりのパーツになったらいいと思うんだよ」。石巻に来るたびに足を運ぶという行きつけのお店で新鮮なホルモンを楽しみながら、ジョージさんは復興への想いを語ってくれました。「住みやすさって、住む場所がいいかどうかだけじゃないでしょう。顔を突き合わせて話せるコミュニティが復興しないと、住みやすい街にはならない。いろいろ試行錯誤して、実験を重ねて、石巻を『理想郷』にしちゃったらいいんだよ。こんな街に住みたいってアイディアを出し合ってさ」。港町に暮らす人々の活気を感じられる石巻を、もっと紹介したいとジョージさん。「家族連れで来てもらって、子どもに見せたらいいと思うよ。街ができていく過程ってなかなか見られない。人間ってこうやって街をつくるんだって教えたいな。これからも出身者として、いい意味で口を出す存在でいたいなと思うんです。こういう案もある、もっとよくなる、といろいろなところで言い続けることが、いつか、いい街につながると思ってる。ユートピアにしたいですね！」。

沼田佐和子

長年テレビのラーメンコーナーを担当していた高橋さん。真剣な表情で口にし「このスープはすごい」と太鼓判。



旧友と話が弾む高橋さん。「ここに来れば会えるって思うと、石巻に足が向くよね」。

PROFILE

高橋ジョージ
たかはし じょーじ

1958年宮城県栗原市出身。ロックバンド「THE 虎舞竜」ボーカル。宮城絆大使、栗原ドリームアンバサダー。歌手・タレントとして数多くのテレビ番組に出演。東日本大震災後は、チャリティライブやボランティア活動などで被災地を支援した。

石巻 DAY OUT

ISHINOMAKI

石巻で休日を

石巻市は石巻湾に注ぐ旧北上川の河口にあり、三陸海岸の最南端に位置する牡鹿半島を含む風光明媚な街。市の中心街は、新しい商業施設などの見どころがたくさんあるので、ぜひめぐってみてください。

石巻BLUE RESISTANCE

ライブPAチーム「SPC peek performance」が中心となり、東日本大震災で被災した地域の復興に向け「東北ライブハウス大作戦」というプロジェクトを立ち上げ、全国からの賛同や支援を受けて完成したライブハウス。ミュージシャンだけではなく、さまざまな表現者の活動の場として人を繋ぐ拠点になっています。

いしのまき元気いちば

石巻市中心市街のにぎわい創出拠点として2017年6月にオープン。1階には、石巻はもちろん、三陸の鮮魚に水産加工品、地元の特産品がずらり。2階はフードコート形式のレストランで約140席を有し、旧北上川や石ノ森漫画館などの眺望も楽しめます。

COMMON-SHIP（コモンシップ）橋通り

石巻市のまちづくり会社「街づくりまんぼう」が、昨年11月に営業を終えた商業施設の後継として、2018年4月28日、コンテナやトレーラーハウスを並べた仮設型商業施設をオープン。市内外から出店希望を募り、互いに交流しながらイベントなどを展開し、地域の交流・活性化を図っています。

旧門脇小学校校舎（震災遺構）

東日本大震災で3階建ての校舎は1階床上2mまで津波が浸水し、津波火災を伴う漂流物などにより校舎が延焼。学校にいた児童は裏山に避難して無事でした。地震・津波・津波火災の痕跡を残す校舎の一部を震災遺構として保存する整備が進められています。

東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館

南浜・門脇地区の震災前の街の復元模型や震災直後の様子が見られるVRグラスなど、震災の記憶と教訓を伝える施設です。周辺には、復興祈念公園（仮称）の整備が進められています。

取材こぼれ話 VOICE FROM STAFF

NOW IS.防災

トイレの中で地震が起きたら、どんな対応がベストでしょうか？

6月18日、大阪北部地震が発生しました。今後、関連する活断層や南海トラフなどの地震が起こる可能性が懸念されています。NOW IS.ではVol.1〜12号まで、東北大学災害科学国際研究所を取材し「NOW IS.防災〜もしもの時にあなたを守る防災のヒント〜」を紹介しました。バックナンバーはWEBでご覧いただけますので、ぜひ参考にしてみてください。

宮城県の東日本大震災死者数（関連死含む） 10,566人 | 行方不明者数 1,224人　2018年5月31日現在宮城県危機対策課調べ

Support Power

PROFILE

石巻市建設部下水道建設課 計画グループ

水井（みずい） 智博（ともひろ） さん

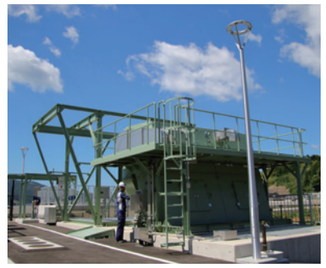
京都市より石巻市に派遣

the 応援職員

NOW IS. 石巻 Ishinomaki

冠水地域に暮らす人の生活改善に貢献したい。

週末は子どもを連れて公園に行くことが多いという水井さん。牡鹿半島にある「御番所公園」はお気に入り。



2017年度末に工事が完了し、今年4月から供用開始した折立第一ポンプ場。

兵庫県宝塚市出身の水井さんは、小学6年生の時に阪神淡路大震災を経験。当時は幼かったので気づかないうちに街が復旧していったが、大人になった今、今度は自ら被災地の復興に携わりたいと派遣職員に志願。2016年4月から機械職として石巻市に派遣され、建設部下水道建設課に所属しています。

石巻市では、東日本大震災の影響で大規模な地盤沈下が発生し、満潮時に冠水する地区も出たことから、復興事業として強制的に雨水を排水するポンプ場11カ所の新設を計画。2020年度完成を目指して雨水排水対策事業が進められています。

京都市では上下水道局に所属し、下水道処理場内の機械の工事発注や維持管理をしていた水井さん。その経験と専門知識を生かし、石巻市では新設するポンプ場などの機械の設計や施工管理を担当しています。「下水道建設課には機械職の職員が他にいないので、身近に専門的なことを相談できる人がいない大変さはあります。しかも2020年度完成というタイムリミットのプレッシャーも大きい。でも市民のみなさんの生活改善に直結する仕事なので、使命感を感じながら仕事をしています」。

完成しているポンプ場は2カ所。「11カ所中の2カ所なのでまだまだ気が抜けません。今年は工事発注のピークなので妥協せずにいいものをつくり、雨水排水対策に少しでも貢献できればと思います」。

家族と共に石巻市に来て3年目。京都市に戻る日もそう遠くはありません。「京都では老朽化した施設を更新していくことが主な仕事でしたが、石巻に来て新しいものをゼロからつくるという経験ができました。知識の幅が広がりスキルアップにつながったと思うので、京都に戻ってからの仕事にも活かしていきたいです。どうしても派遣職員は期限があるので、すべてのポンプ場の完成を見届けることはできないかもしれませんが、その時はまた家族を連れて石巻を訪れ、自分が携わった仕事を子どもたちに見せたいですね」。

info/area

【エリア情報】 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

第95回 石巻川開き祭り

伊達政宗公の命を受け、北上川を開削し石巻に港を開いた川村孫兵衛重吉翁に対する報恩感謝の祭りとして始められた90年も続く祭り。水難者に対する慰霊、東日本大震災で亡くなった方の供養祭も行われ、パレードや花火大会も開催されます。

●日時：7月31日（火）・8月1日（水）

●場所：市内中心部、旧北上川河口

問0225-22-0145（石巻川開祭実行委員会）

ツール・ド・東北2018が開催されます。

2013年より開催され、今年で6回目を迎える自転車イベント。順位を競うレースではなく、津波の被害を受けた宮城県沿岸部を走りながら、被災地の現状を見てもらうファンライドです。大会を支えるボランティアは7月31日まで募集しています。詳しくはHPを参照してください。

●日時：9月15日（土）・16日（日）

問https://tourdetohoku.yahoo.co.jp/

今月のガイド MONTHLY GUIDE

石巻BLUE RESISTANCE 代表
東北ライブハウス大作戦
石巻支部長

黒澤（くろさわ） 英明（ひであき） さん

「30年前の石巻市は、レゲエとロカビリーが盛んだったんですよ」。そう話す黒澤さんは、高校生の頃までバンド活動に明け暮れていたそうです。

東日本大震災で街に活気がなくなってしまった石巻市を見て、音楽で街を元気にしたいと思います。そんな時「東北ライブハウス大作戦」を知り、ライブハウス建設に向けて奔走しました。

「このライブハウスは、全国からの賛同と支援を受けて完成しました。これからもこの場所や音楽を通して、人と人とのつながりを大切にしていきながら、新しい石巻をつくっていきたいです。若者や子どもたちの思い出に残る場所になれたらいいですね」。

想いを込めて新聞という名の「手紙」を書いています。

（上）住民の声に耳を傾ける岩元さん。
（左）市内全仮設住宅と市街地の復興住宅に無料で配布しています。
（右）発行は月1回、6000部。

一軒一軒手渡し、見回りや心のケアも兼ねる

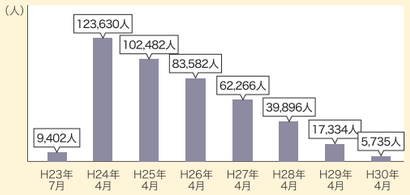
「仮設住宅に住む人たちの顔を思い浮かべながら記事を書いています。これはあの人が好きだろうなとか。新聞というよりは『手紙』ですね」。そう話す岩元さんが初めて石巻市を訪れたのは、2011年4月23日。一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター(以下PBV)のボランティアとしてでした。1週間だけのつもりが、ボランティアリーダーとして老舗かまぼこ工場の支援をするまでになります。

2011年10月、PBVでは「仮設きずな新聞」を創刊。当時は、仮設住宅の暮らしの手引など自治体の情報を転載し、仮設住宅での見守り活動の際に、手渡しで配られていました。岩元さんは、その年の12月から新聞に携わり、2012年4月にPBVの職員に。そして7月には編集長となり、新しい企画を次々と考案します。仮設住宅に閉じこもりがちな住民が、外に出るきっかけになればと、趣味のサークルを紹介したり、医療や心のケアなど専門の職業の方に記事を書いてもらったり。住民の方からの声がきっかけでスタートした「石巻ガチ市民」という企画もあるそうです。「応援してくれる人たちがいるから続けられた」と岩元さんは言います。

しかし、仮設住宅から災害公営住宅などへ転居が進み、PBVが石巻での活動を2016年3月で終了するとともに、「仮設きずな新聞」の終刊も決まりました。続けてほしいという住民の声、制作・運営にやりがいを感じていたスタッフや地域のボランティアからも「まだ続けたい」との声が。「仮設で暮らしている人たちは、まだたくさんいます。情報を得る手段がない方も多く、新聞へのニーズは高いんです。現在・過去を伝えながら、未来を見据えていけるような新聞にできたら」。岩元さんはPBVを辞め、クラウドファンディングで資金を募り4月に「石巻復興きずな新聞舎」を立ち上げました。その際、4年前に結婚した岩元さんの夫も背中を押してくれたそうです。「主人と一緒に新聞を配りに行ったときに、『あきちゃんこれおいしいから持っていって!』『お茶飲んでいって』と声をかけてくれるのを見て、うちの妻はこんなに必要とされているんだ(笑)無理のない形で続けたらって」。岩元さんは、夫の住む東京と石巻を往復しながら活動を続けています。石巻復興きずな新聞舎の活動は、新聞を通した訪問や見守り活動以外にも、地元ボランティア育成による地域の支え合いの仕組みづくり、県外ボランティアの受け入れによる震災の風化防止など多岐にわたります。

「石巻は人と人とのつながりが感じられる場所。『新聞』とのつながりを通して、つらいと思う人たちが生きていてよかったと思える日が来るといいなと思っています」。

宮城県内の応急仮設住宅入居者数



PROFILE

石巻復興きずな新聞舎　代表兼編集長

岩元（いわもと） 暁子（あきこ）さん

横浜市出身。大学を卒業後、米系IT企業に就職。ボランティア休暇制度でボランティアを体験し「自分の能力を活かし、人の役に立ちたい」と退職し、海外青年協力隊を目指し準備をしている際に東日本大震災が発生。PBVのボランティアとして石巻に。

NOW IS. vol.27 ナウイズ

発行：2018年7月11日　宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570　宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel：022-211-2408　Fax：022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県 Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 復興五輪を盛り上げよう!「東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた2年前イベントin宮城」

宮城県では、利府町の宮城スタジアムでサッカー競技が開催されることから、大会の2年前を記念したイベントを開催します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。「復興五輪」を宮城から盛り上げましょう!

会場：せんだい青葉山交流広場
（仙台市営地下鉄東西線国際センター駅隣接）
日時：平成30年7月28日（土）11:00～17:00　入場：無料
【内容】
・平瀬智行氏（シドニーオリンピック出場）トークステージ
・ブラインドサッカー体験ほか

問 県オリンピック・パラリンピック大会推進課
☎022-706-7115

02 応急仮設住宅の供与期間延長について

下記の対象市町で被災し、応急仮設住宅（プレハブ・民間賃貸借上げ住宅など）にお住まいの方のうち、要件に該当する方の供与期間を最長で平成32年3月31日まで延長することが決定しました。

延長を希望される方は、届出が必要ですので、被災時にお住まいの市町から送付される案内をご確認ください。

【対象市町】石巻市、気仙沼市、名取市、東松島市、女川町
【要件】災害公営住宅や防災集団移転など公共事業による自宅の再建先は決まっているが、工期などにより退去できない方

問 県震災援護室
☎022-211-3257

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!

http://www.fukkomiyagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報をブログで!

今月のブログピックアップ

宮城発！
元気と食の最新情報

一般社団法人 IkiZen

震災復興に軸足を置き、被災地の企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。

このブログでは、被災地企業や団体のさまざまな取り組みを発信しています。今回は、夏休みに向けて、復興庁のインターン事業の準備を進めている「一般社団法人ワカツク」の取り組みをご紹介します。

震災遺構

宮城県内では、多くの伝承施設や復興のモニュメント、震災遺構の整備が進められています。このブログでは、震災の記憶の風化防止や防災意識をより高めるために、宮城県内の震災遺構を紹介します。

今回は、千年先まで子どもたちが笑顔で幸せに暮らせるよう願いを込めて名付けられた「千年希望の丘」の特集です。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

●いまを発信！復興みやぎ　SNS「いまを発信！復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

●NOW IS.メールマガジン　NOW IS.の発行日（土日・祝日のときは翌平日）にメールでお知らせします。 NOW IS.メールマガジン で検索して登録!

宮城の「今」を発信 × エフエム仙台

震災の伝承や防災・減災に取り組む活動をご紹介します。

「Hope for MIYAGI」

宮城の「今」を生きる方々の想いを伝える

エフエム仙台では、番組やイベントなどを通して、被災地の「今」を発信してきました。2012年3月に立ち上げた復興応援プロジェクト「Hope for MIYAGI」（毎週月曜12時～12時25分）では、宮城県内で復興や防災に取り組む企業・団体の方々のお話を紹介しています。

また、仙台観光国際協会と災害時における外国語放送の覚書を締結し、災害時は多言語で情報を発信、日本語のほか英語や中国語、韓国語で、さまざまな方が情報を共有できるようにしています。

2018.7.11
Vol. 27
July, 2018
ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

NOW IS.

石巻復興きずな新聞舎
岩元 暁子

最後のひとりが仮設住宅を出るまで続けたい。

JR石巻駅近くの築50年になる木造2階の一軒家。ここで毎月発行しているのが「石巻復興きずな新聞」。その編集長を務めるのが、岩元暁子さんです。

「石巻復興きずな新聞」は、東日本大震災で被災した石巻市の仮設住宅に、地域の情報を届けていた「石巻仮設きずな新聞」の後継紙。2016年に終刊したあと、岩元さんが「石巻復興きずな新聞舎」を立ち上げ、復刊しました。

岩元さんは横浜市出身。ボランティアとして石巻にやってきて活動を続ける中、「仮設きずな新聞」の担当にならないかと声をかけられました。「正直、とても嫌だったんです。それまで工場支援をしていて、石巻の人たちに向き合い、寄り添いながら活動してきたのに、毎日パソコンに向き合うの？って…。それが天職になるとは思いもしませんでした」と笑顔で話します。